

21世紀ひょうご市民学会 会報

8号

2008年12月17日

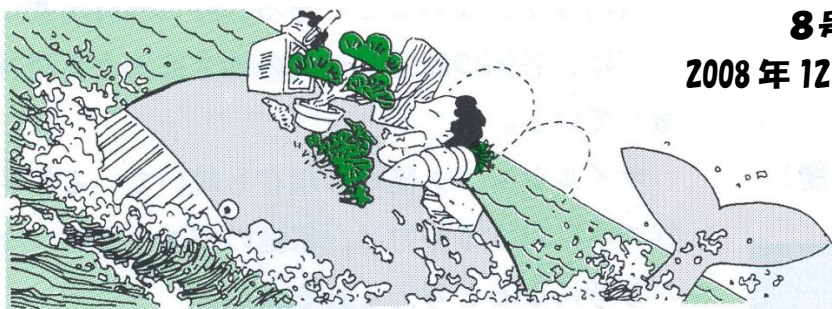
—編集・発行—

21世紀ひょうご市民学会

「神戸生活創造センター」登録番号 630

代表世話人 澤木昌典

http://www.geocities.jp/hyogo21_citizen/index.htm



第8回「知的サロン」ご案内

日時：平成21年1月9日（金曜日） 15:00~17:00

場所：県民会館 3階 301号室

テーマ：「生き方」 発表者：足立隆子 上田寿栄 田中有司

同封の返信はがきに出欠の意向を記入し12月26日までに投函して下さい。

研究グループ発表会 報告

世話人 小林東生、渡邊雄一、庄司富美子

21世紀ひょうご市民学会の研究発表会は12月5日（金曜日）午前10時から午後3時まで、神戸生活創造センター・4階・創作工房にて兵庫県神戸県民局のタイアップセミナーとして、会場、宣伝などのご協力をいただき行うことができました。当日は、前日とは打って変わって冷たい雨の日となりましたが、当学会会員13名、一般10名、合計23名の方々が参加され、充実した発表会となりました。この発表の詳細は別途作成したいと考えています。写真で発表会の雰囲気をご覧ください。

地球温暖化で今世界は？ そして未来は？

—気候変動に関する政府間パネル（IPCC）の報告書内容
紹介と温暖化に対する市民レベルの対応策の懇談—

挨拶 研究グループ代表 塩野 勝

1. 気候変動に関する観測結果とその原因、および、
予測される変化とその影響 渡邊雄一 中川政美
2. 日本ではどうなっているのか？そして未来は？ 塩野 勝
3. 私たち市民がとるべき対策は？ 竹重 勲
4. アンケート・質問・意見交換 進行 田中有司
5. まとめ 庄司富美子



特別寄稿

「帝王学」 覚え書き

会員 千葉俊壹



「美しい国づくり」を旗印に掲げ、花々しく船出した安倍首相は施政方針演説を終わった直後に退陣、急拠、福田首相の登場となった。折角、「洞爺湖サミット」で全世界にデビュー、華々しい外交戦略を展開したのに衆参両院のいわゆる「ねじれ国会」で小沢民主党との“大連立”の夢もむなしく、政権運営に行き詰まり、約1年間で政権運営を放り出す破目になってしまった。

そして麻生首相が就任するに至った。呆気にとられたのは私だけではあるまい。

私はこうした一連の首相交代のドラマをながめていて、いまさらながら一国のトップリーダーたる者は如何にあるべきか。その原理原則を説いた「帝王学」あるいは「人間学」といったものを確立する必要性を改めて痛感している。

「帝王学」の源流といえば中国五千年の治乱興亡の歴史の中で磨かれ、生まれた古典「十八史略」が挙げられよう。

これはモンゴルに改められて中国の南宋が滅亡に瀕した激動期を生き抜いた史家曾先之が書いたもの。

登場する人物は実に四千五百十七人にも及んでいる。筆者は「史記」「漢書」など十八の史書から抄出して時代順に編纂（へんさん）した。日本には室町時代末期に伝わり、江戸時代には中国史入門書として広く読まれた。

その中で特に強調しているのは権力に対してしっかりした姿勢、あるいは明確な原理原則を把握していない人物が一国の宰相になったりするとその国は傾

いてしまうということだ。

「帝王学」には次の三つの柱がある。

第一、原理原則を教えてもらう師を持つこと。昔は通用したが、今では通用いしない、というのは原理原則ではない。

第二、直言してくれる側近を持つこと。

トップになると耳に痛い情報は部下からはなかなか上がってこない。心地よいものだけを聞いていると、いくら賢明な人物でも三年も立たないうちにバカになってしまう。

十八史略はその例として側近の超高に誤られた擧句の果てついに秦を滅亡させてしまった二世皇帝胡亥の悲劇を実例として取り擧げている。

正に「一国争臣なければ 危ふし」ということである。争臣とはトップの意にさからっても常に正論を吐く者のことをいう。

第三、よき幕賓（パーソナル・アドバイザー）を持つこと。

帝王を心から好いているが、朝廷に使えて袴（かみしも）を着る窮屈さを嫌い、野にあって帝王にいろいろと直言してくれる人物のことだ。

帝王に魅力がないとなかなかついて来てくれない。どれだけの幕賓を持っているか、で帝王の器量がはかれる。

魏の文侯は幕賓一李克に宰相たるものの条件について聞いたところ、次の五つの条件を挙げた。

第一、居テハ其ノ親シムトコロヲ視ル。

官を退いて浪人しているとき、どういった連中とつき会っていたかを観察する。一流の人物ばかりと付き合い合っていたら、それはまさしくホンモノである。

第二、富ミテハ其ノ与ウルトコロヲ視ル。

世を治め人を救う（経世済民）ために人材育成にカネを使うのが一番の使い道である。

第三、達シテハ其ノ擧グルトコロヲ視ル。

いかなる人物を登用しているか、を観察することである。宰相になったときどういう閣僚人事をやったか、が最大の課題になる。

第四、窮シテハ其ノ為サザル所ヲ視ル。

人生で「灰の時」つまり何をやってもうまくいかな

いときは、あせらずに静かにその中に没入して人間を磨き実力を養うこと。

第五、貧ニシテハ其ノ取ラザルトコロヲ視ル。

貧乏してもプライドを持って変なカネに手を出さない。これだと墮落しない。つまり「清貧」に甘んじるとのことである。

文候は魏成と翟璜（てつこう）の二人の宰相候補者にしぼっていずれを登用するか悩んでいたがこの李克の条件を聞いて魏成を選ぶ決断をしたのであった。

「帝王学」教科書といわれるものにはこのほか唐の太宋と補佐した名臣たちの政治問答集「貞観政要（じょうがんせいよう）」がある。これは太宋の没後、五十年、史家呉兢が編纂したもの。わが国では鎌倉時代に「尼將軍」といわれ権力を振るった北条政子をはじめ徳川家康や明治天皇といった人々が治政の参考にしたと言われる。

ところでこうした「帝王学」については和漢洋に通じた人間学の権威。「平成」の元号を考案した碩学—安岡正篤（まさひろ）を指南番として歴代の総理は勉強会を持って日夜、勉強にはげんだ時もあった。

とくに麻生首相の祖父でワンマン総理として知られる吉田茂は安岡正篤を「老師、老師」と呼んで敬意を表していた。

このため吉田学校の門下生だった池田勇人、佐藤栄作、あるいは大平正芳といった歴代総理は「帝王学」に学ぶところがあったようだ。

なかでも佐藤栄作元総理は大変な傾倒振りで、施政方針演説の草稿が出来上がると必ず秘書官を安岡正篤の私邸に走らせ校閲、点検してもらった。さらに新宮殿の落成式で昭和天皇の御前でおこなった演説の草稿、またノーベル平和賞受賞後の記念講演の内容についても指導してもらったというエピソードがある。

昨今の総理はどうであろうか。

毎日のように新聞に掲載されている「首相の動静」欄を読んでみると激務の中にあっても、時間をつくって静かに「帝王学」を学んでいる姿をかいまみることは全くと言ってよいほどない。

安岡正篤のような指南番が昭和58年12月、亡くなったせいでもあろうか。誠に残念至極である。

（以上）

（参考）

- 「現代の帝王学」伊藤 肇著（プレジデント社）
- 「十八史略の人物学」伊藤 肇著（プレジデント社）
- 「不滅の帝王学」伊藤 肇著（東林出版社）
- 「安岡正篤に学ぶ人物学」（致知出版社）

お知らせ

知的サロン

世話人 計盛哲夫 大竹真一

知的サロンの今後の日程は下記のようにしております。詳細は追ってご連絡します。

回	日時	備考
9回	3月14日(土) 15:00~ 17:00	
10回	5月8日(金)	トップセミナー
11回	7月12日(土)	トップセミナー

会費納入のお願い

会計担当世話人 松原宏治

会費未納の方がおられます。早急に納入くださいますようお願いいたします

- > <銀行振込> 三井住友銀行 兵庫県庁出張所(428)
口座番号 普通預金 3269542
名義人 21世紀ひょうご市民学会
- > <郵便振替> 口座番号 00900-3-140156
口座名 21世紀ひょうご市民学会

区分	平成19年度会費
個人会員	5,000円
団体会員	50,000円

第7回「知的サロン」報告

上記知的サロンは平成20年11月14日(金曜日)15:00~17:00、県民会館 3階 302号室にて、テーマ:地域社会、発表者:竹元忠嗣、野口民治、松原宏治の方々により、出席者11名で行われました。発表要旨を下記に掲載します。

『余部鉄橋』ものがたり

竹元 忠嗣



山陰本線「余部鉄橋」の架け替え工事が進んでいる。余部集落と長谷川を一跨ぎに横過する。高さ41.45m、長さ310.59m、両側の橋台の間に11基の橋脚を備え、100年近い風雪に耐えて、多くの旅客を渡してきた。赤い色と特異な構造体は余部の谷に独特の風景を創りだしている。

この余部鉄橋が橋脚4本を備えた“エクストラドード PC コンクリート橋”に替わる。現在、橋脚工事の最盛期で、2009(平成21)年春から上部の橋げた工事にかかり、10(平成22)年の秋には新橋梁に切り替わる。それまでは現在の鉄橋を使い続ける。

1900(明治33)年に始まった山陰本線(314km、福知山~出雲今市)の鉄道建設は香住駅を境に東西の二つの線区に分けて行われ、この余部鉄橋と3km西側の「桃観トンネル」(1,992m)の工区が完成することによって全線が開通するという、いわば当時の技術では最大の難所であった。

設計当初から鉄橋方式かコンクリート橋方式かの議論が分かれた。海岸に近接し、塩害対策の厳しさは当初から想定されたが、未知の領域が多かったコンクリート技術に較べて、“やぐら方式”の構造体(トレスル橋)の分かりやすさが判断を制したという。専門職人集団の“橋守”による営々とした「繕いケレン作業」が余部橋梁を守

ってきた。

その一方で、日本海特有の風による列車の遅延、運休がかなりの頻度で発生する。1986年12月に開業以来初めて、回送列車の転落事故が発生した。6名の犠牲者が出た。

この事故を契機に風速規制が一段と強化され、その結果列車運行に大幅な遅延、運休が発生した。特に12月~2月の冬季に集中し、平均的におよそ運行列車本数の7.3%にもおよぶ。しかも風当たりがきつい東側橋脚の構造部材の損傷も著しい。専門家、兵庫鳥取二県、JR西日本等による様々な技術検討を経て、新橋梁に架け替えすることとなった。技術的な特色、施工中の安全管理、最短の列車運休日数等から優れた工法が採用された。

架け替え工事の目的は、列車の安全性および定時制確保が主眼である。本来鉄道が備えるべき基本条件である。遅延や運休などのマイナスの失点をいかに抑えるか、地域の生命線を守る、いわば鉄道の原点に極力立ち戻ろうとする発想である。

現在の余部鉄橋は近代土木遺産として、観光の地域資源として、地域の風景をつくる景観文化としての評価が高い。この価値をいかに残していくか「余部鉄橋利活用検討会」での多くの議論を経て、余部駅に最も近い橋脚3基の保存と、道の駅と技術保存を兼ねた鉄橋記念施設と、鉄橋展望台の「空の駅」の形で保全継承していく方向が決まった。

『明日の余部を創る会』を中心に、地元主導型の地域活性化の取組みが進んでいる。一過性のハードな地域対策に終わらせてはならない。余部鉄橋ものがたりの“かたりべ”の担い手を始め、“地才地創”を生かした地元特産品の創出、香美町を軸とした但馬地域資源との連携・回遊プログラムづくりなど、ソフトな活性化対策を通じた地域の“アイデンティティ”作りが求められている。地元の元気を地域の核として沿線地域総ぐるみで取り組んでいくことが重要と考えられる。

(この稿は2008年11月14日の第7回知的サロンでの卓話をもとにまとめた。)

ある地域社会についての考察(生駒市の場合)

2008/11/14 野口民治



1、生駒市の概要

地名は古く、日本書紀の「神武天皇」記に登場する。飛鳥・平城京時代には役小角や行基、有馬皇子らの記述にも関連し、ゆかりのある場所や建造物など今に遺るものがある。古い伝説や伝承、また、特色ある民俗文化や民間宗教を多く伝える地である。

地理的には生駒山と矢田丘陵に挟まれた生駒川(竜田川)、交野市へ下る天の川および矢田丘陵と西奈良丘陵間の富雄川の三川の上流地域で、大阪・京都・奈良の接点であり、河内から大和への交通の要地であった。「手近にある山里」としても親しまれて来た。

近年、大阪から近い住宅地として宅地造成が進み、昭和30年代には2万人台であった人口が市制施行(昭和46年11月)後20年で10万人を越えた(現在12万弱)。転入者の前住所は全国に及び、最近は中国、韓国、南米からの移住も増加している。

北部地域は関西文化学術研究都市の一主要部で奈良先端科学技術大学院大学(国立)のほか民間の研究も立地しているが、産業としては茶筌以外に特筆するものがなく、市の収入に個人所得税のしめる割合が大きい。

2、地域の課題

多様な生活文化・価値観を持つ人々の急激かつ大量の流入は従来の地域共同体に大きな影響を及ぼし、地域の環境・文化や防災・防犯などの面で不安定な要素ともなっている。

また、初期の転入者には中高齢・高所得者層の比

率が高かった。この層がリタイヤして年金生活へ移行するにつれ自治体収入の先行きが懸念され、北部の準工業地域への企業誘致が重視されるようになっていく。

転入者の転入理由の筆頭に「緑豊かな住環境」が挙げられているが、宅地開発の進展や事業所・交通量の増加などにもない、林野・丘陵が切り開かれ、里山に抱かれた大和棟の農家や田園の織りなすのどかな風景も失われていく状況にある。

さらに、以前の主要産業であった農業の担い手が高齢化し、国の減反政策もあって耕作を放棄した農地、利用されなくなった溜め池が増えてきた。自然環境の悪化とともに土地と結びついた特色ある民俗文化・行事の継承・保全も懸念されている。

3、地域の「資産」: 生駒市の将来のために

生駒市の「お宝」は四つ。①大都市の近くにある豊かな自然環境、農村と里山の風景、②日本民族の財産でもある歴史・伝説(その場所、風景を含めて)と固有の民俗文化、③日本に二つだけの先端科学技術大学院大学、そして④リタイヤした人材の智慧と経験。

将来に向かってこれらの「資産」をどのようにに活用し、安心・安全で暮らしやすい、心豊かな地域をつくっていくか、今、その智慧が問われているように思う。

4、新しい地域コミュニティの担い手は? : 自治会長の経験から

「新住民」の多い地域ではまだ地域コミュニティが成熟していない。一人暮らしの高齢者も増えてきている。新しい地域コミュニティの形成には自治会とともに老人会が受け持つ役割が大きいのではないかと感じている。



トルコに旅して

21世紀ひょうご市民学会第7回知的サロン

平成20年11月14日

松原宏治

昨年6月、トルコを旅行して見聞きしたことをお話しします。

トルコは小アジアにあって、広さ78万平方キロメートル（日本のほぼ2倍）の面積、人口は7,206万人（日本の60%）です。日本との時差は7時間あり、飛行機で12～14時間のところです。トルコも都市への人口集中がすすんでおり、現在イスタンブール1200万人、アンカラ400万人、イズミルに260万人がいるといわれています。この国の歴史は古く紀元前6000年ごろ新石器時代がはじまり、ヒッタイト、フリギア、リディア王国を経てヘレニズム時代、ローマ時代、ビザンチン帝国時代へとつながります。11世紀、トルコ系イスラム王朝のルーム・セルジューク朝がコンヤを首都にアナトリアを支配、13世紀にオスマン族が台頭。オスマン帝国は15世紀にビザンツ帝国を滅ぼし、最盛期にはバルカン半島、アナトリア、メソポタミア、北アフリカ、アラビア半島を支配した。19世紀第一次世界大戦で敗北、1922年滅亡。1923年トルコ共和国が成立、現在に至っている。



今回の旅行では、ブルサ、トロイ、ベルガマ、ミレトス、ディディム、エフェソス、パムッカレ、アンタルヤ、コンヤ、カッパドキア、ハトウシャ(ヤズルカヤ)、アンカラ、サフランボル、イスタンブールとトルコの有名な遺跡、故地を訪ねた。

紀元前19世紀にさかのぼるヒッタイト帝国の遺跡、ベルガマ・エフェソス・ミレトスのようなギリシャ・ローマ時代の遺跡、ブルサやサフランボルなどオスマン帝国時代の古都、現在もにぎやかな都市イスタンブールを見て回り、この地の長い歴史を感じた。有名なパムッカレやカッパドキアはやはりすばらしい。旅行中に見かけた風景に、屋根の上に丸いタンクと温水器を載せた家々、斜面に建つ一夜作りの家ゲジュコンド、ボスポラス海峡の別荘ヤル、窓に国旗を掲げている家など。土産にロクムとナザール・ボンジュールを買った。

以上

21世紀ひょうご市民学会 「会報 第8号」 発行担当および連絡先

担当	氏名	電話番号	FAX 番号	メールアドレス
広報	足立隆子	078-792-6243	同左	ma-chin@muf.biglobe.ne.jp
	田中智子	078-241-0320	同左	s-tanaka610@beach.ocn.ne.jp
会計	松原宏治	0797-23-6498	同左	kouji-ma@fa2.so-net.ne.jp
総務	田中有司	0797-74-3327	同左	ymtanaka895@yahoo.co.jp